

名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル
(TEL：052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分
クラブ会報広報委員長：岩田 宏
HP：<http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2024-25年度 R.I.テーマ
会長：ステファニーA. アーチック



Rotary
Club of Nagoya Marunouchi

承認
会長
幹事
事務局

1995.03.28
加藤 豊
田中 如似
名古屋クレストンホテル
1007号
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324
FAX 052-263-0730
E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp

加藤 豊 会長 年度目標：30周年を祝おう！ そして新しい時代を迎えるための楽しい体験を積もう！

第1273回 例会 No. 14 令和6年11月14日 (木)

財団月間卓話

- ローターソング 「君が代」「奉仕の理想」
- 出席報告 会員46名中22名出席
- 出席率 52.38% 出席計算人数42名
- スピーカー 長谷川 龍伸さん
- ゲスト 米山奨学生 キム ジ ウォンさん

会長挨拶

加藤 豊

皆さんこんにちは。

11月最初の例会を始めたいと思います。
先週の地区大会には多数のご参加、ありがとうございました。

今回の大会は春日井ロータリークラブがホストクラブでしたが、どうも会場の確保がうまくいかなかったようで、2日間とも名古屋市内での開催となりました。2日目は皆さんも参加されたので、今日は初日に行われた地区大会の特別講演についてお話ししたいと思います。

初日の特別講演は、アフガニスタンの JICA(国際協力機構)にて農業支援などを担当しておられる、大豆本由紀さんのお話でした。アフガニスタンといっても、タリバンの侵攻でカブールにいられなくなったため、現在では東京の本部で活動されているようです。今回の講演で私は初めて知ったのですが、ロータリーには平和フェローシップという制度があり、大豆本さんは平和フェローシップの修士号取得プログラムを利用して、2006年から2007年まで英国のブラッドフォード大学に留学し、紛争解決学修士号を取得しています。紛争解決学などと言う学問があると言う事、これも今回初めて知りましたが、平和構築以外に復旧復興支援等のノウハウに関する学問のようです。面白かったのはジェンダーの平等に関する取り組みもあるようで、戦争や紛争に巻き込まれた女性が性的な犠牲にならないように支援するようです。平和フェローシップのプログラムは、最低3ヶ月のインターンシップを課しており大豆本さんは初仕事として6ヶ月間インドネシアのアチェ州へ行き、自由アチェ運動による内戦と2004年のスマトラ沖地震で荒廃したアチェ州の復興に努めました。修士号を取得後、2009年には南部スーダンに赴き、地雷回避教育に携わりました。スーダンは繰り返す内戦によって国中に地雷がば



ら撒かれており特にクラスター爆弾の地雷化による被害が甚大なようです。地雷は1個300円から3000円で作れるのに対し除去するためには1個3万円以上かかるため、地雷の除去による安全確保は現実的ではなく、現地の住民たちが地雷に近づかないように教育するようです。その後2011年に東日本大震災を始め、スリランカ、ネパール、ナイジェリアなどの世界の被災地紛争地で復興に携わっておられます。大豆本さんのような平和フェローシップ卒業生は、まだ国内にもほんの5~6人しかいないようですが、フェローシップには授業料、入学金の全額、留学先での宿泊費、食費、往復航空券、実地研修の費用等全てが含まれています。この手厚い補助を見てもRIがこの制度にいかにか力を入れているかわかると思います。英語が堪能であること、学士号を保有していること、少なくとも3年以上の実務経験があることなど、若干ハードルの高いフェローシップではありますが、世界平和の構築と言うロータリーの国際奉仕の精神の根幹をなす大事な制度だと思いました。私もこの制度を知らなかったのが、本日お越しの皆さんの中にもご存じなかったと言う方がいらっしゃると思いますが、皆さんの周りで国際貢献に意欲のある若者がおられましたら、ぜひこの平和フェローシップ制度について教えてあげてください。最後に本日は財団卓話の長谷川さんをお願いしてあります。長谷川さんよろしく願いいたします。それでは本日よりお願いいたします。

11月の祝福

誕生日		結婚記念日	
1日	恵利 有司	3日	河原 照忠
2日	後藤さんご夫人	3日	成田 勝彦
2日	岩本さんご夫人	4日	藤田 守彦
15日	木下 卓也	15日	清水 琉蒼
19日	岩田さんご夫人	18日	堀江 俊通
26日	高坂 昌志	18日	矢野 雄嗣
29日	西川 博	23日	木下 卓也
30日	今村 昌根	25日	高橋 伸人

次回例会のご案内

※ 11月21日(木) 休会 11/23「勤労感謝の日」

11月28日(木) 例会変更「Make a Wish 支援夜間例会」18:30~

ニコBOX

●今月は財団月間です。本日はクラブロータリー財団委員長の長谷川龍伸さんにお話しいただきます。宜しくお願いします。

加藤会長、田中幹事、藤田、杉江、田島、後藤、安江、成田、小野、松尾、水野、堀江亮介、磯部、岩田、高山、佐久間、高坂（敬称略）

ロータリー財団委員長 長谷川龍伸さん

財団卓話を担当します。宜しくお願いします。

お誕生日のお祝いを有難うございます。

今村、西川、恵利(敬称略)

本日合計 45,000 円

米山奨学金贈呈

キム ジ ウォンさんに米山奨学金 11 月分を加藤会長からお渡ししました。



【ご挨拶】

皆さんこんにちは。

奨学生のキム ジ ウォンと申します。

まず、近況報告をさせていただきます。

先週の日曜日、11 月 10 日には、地区

大会に参加しました。昼休みに奨学生

たちと色々な話をすることができました。

また、青少年交換留学生と同じ部

屋で昼食をとることになり、ある少女が私に話しかけて

きました。話を聞いてみると、彼女はある韓国アイドルグル

ープのファンで、奨学生の中に韓国人がいれば話しかけ

たいと思って声をかけたそうです。彼女は名古屋大学附

属高校に通っている高校 1 年生でした。

お互いに色々な話をしているうちに、韓国語を勉強してい

るけれど、わからない所が多いと言っていたため、言語交

換の目的で SNS を教えて、現在、チャットで韓国語を教え

ています。私が日本に 5 年間住んでいて、ここまで積極的

に韓国語を学びたいと言った子は初めてでしたが、彼女

が韓国に興味関心を持ってくれてとても嬉しく、韓国語を

一生懸命教えてあげたいと考えています。

また、今週の土曜日には、奨学生学友合同研修会が熱田

神宮で開催されるので、他の奨学生との交流や日本文化

の体験を楽しみにしています。最後に、今月も支援してい

ただいた奨学金で研究と就職活動に専念したいと思っ

ています。以上です。ありがとうございます。



幹事報告

田中 如以

こんにちは。幹事報告をさせていただきます。



本日理事会が行われまして、いくつ

かご紹介したいことがあります。

能登半島の豪雨災害義援金について、ニコボックスからお 1 人 1000 円集めますのでよろしくお願いいたします。

11 月 28 日、チャリティー例会がありますが、オークションの品物を募集

しています。どんなものでも構いません。古着とかそういうのは駄目ですが、例えば手作りの物なんか OK です。お持ちになってください。よろしくお願いいたします。

30 周年記念式典事業の進捗状況が今日発表されまして、田島委員長が色々考えてくださっていますので、皆さんご協力をお願いします。

来年 2 月に行われます IM ですが、全員登録とさせていただきます。

退会による欠員が出ていたクラブ会報広報委員会の副委員長に、八木宏樹さんが選出されご本人にも了承をいただきましたので、ご報告をさせていただきます。

今月の例会ですが、来週は休会で、28 日木曜日には先ほど申し上げましたがチャリティーオークションが行われます。Make a wish 支援チャリティー夜間例会 6 時 30 分から

ですので、よろしくお願いいたします。12 月の例会は、12 月 5 日、グローバル奨学生の小林美智さんが 9 月に帰国されまして、卓話を行ってくださいます。この方はイギリス

で平和構築と紛争予防について研究されていました。将来の平和フェローを期待されているお 1 人ですので、ぜひ皆さん聞いていただきたいと思

います。またこの日は年次総会ですので万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いします。

そして 12 月 14 日土曜日はクリスマス家族例会になります。

こちら今、小野さんが頑張って色々支度をしてくださっています。よろしくお願いいたします。12 月 19 日の最終例会は外部卓話として、愛知県の生物環境局の方にお越

いただき、生物多様性 2024 のご説明と、最近話題の愛知県で猿とか猪とか結構出ているその辺のトピックを聞けるかと思

財団月間卓話

ロータリー財団委員長 長谷川龍伸

「ロータリー財団を学ぼう」



今までは財団月間には地区の財団委員会から卓話者が派遣されて

いましたが、今年からは各クラブ

の財団委員長が

話しなさい、とい

うように変わりました。

私も今まで地区の財団委員会で、先ほど田中幹事から 12 月の卓話者としてご紹介があった

グローバル奨学生に関わったことがありますので、その辺りの事にも触れてお話ししたいと思います。話に先立ち、

財団卓話の研修にも参加してきましたので、その資料を基にパワーポイントを作成しましたのでご覧ください。

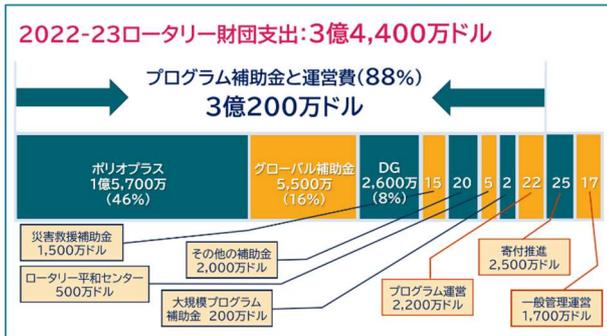
1917 年、アトランタで開催された第 8 回ロータリー年次大

会で、当時の会長アーチ・クランフが「世界でよいことをするための」基金の設置を提案しました。その 1 ヶ月後に寄せられた、26 ドル 50 セントの最初の寄付が、全世界で多くの人の人生を変える財団へと発展しました。

国際ロータリーは、わたしたちの会費で運営されていますが、ロータリー財団は、わたしたちからの寄付のみで、運営・活動がなされています。

国際ロータリーとロータリー財団の資金の違いを説明すると、本年度の場合、国際ロータリーは、人頭分担金額が 78.5 ドルですので、世界の会員を 113 万人とすると、8,870 万ドルの収入となります。

一方、ロータリー財団は、寄付目標合計が 5 億ドルです。



また、昨年度の年次報告が公表されていないので、2022-23 年度の実績ですが、収入としては 3 億 6,650 万ドルの寄付が寄せられました。

支出はこのグラフのとおりで、わたしたちの寄付が、「世界でよいことをする」ために、毎年このように各所で使用されています。

では、具体的に、わたしたちの寄付がどのように活かされているのかをお話していきます。このグラフを見るとポリオプラスにいかに力を入れているかということがわかるかと思えます。全体で 3 億 4400 万ドル、大体 500 億円ぐらい年間に支出され、そのうちのポリオプラスが、1 億 5700 万ドルです。あとグローバル補助金とか、DG (地区補助金) に多く当てられているということです。

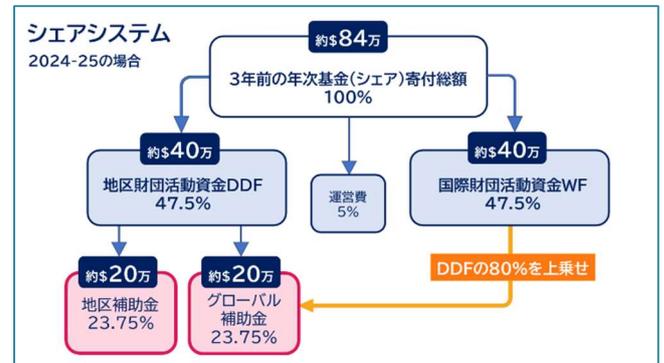
今言いましたポリオプラスですけれども、このプラスの意味は何だろうって僕は前から思っていたのですが、ポリオ+アルファみたいな意味で、ワクチン接種だけではなく、色々水の問題とか環境の問題も整備しましょうとか、ポリオ以外の病気も対象にしましょうとかそういう意味のプラスだそうです。

ポリオというのは皆さんご存知のように小児麻痺のことで、小児麻痺を撲滅するというのを、ロータリー財団至上命題としており、1988 年にそういった活動を開始しました。当時は 125 カ国で 35 万件、発症される方がいましたが、現在は 0.1%まで減りました。その 0.1%はどこかという、アフガニスタンとパキスタンということです。発症数は具体的には、最初先ほど言った 35 万人いたところ、ロータリーの取り組みもあって急速に減り、2024 年 9 月 26 日時点では 40 人までになって、パキスタンが 21 人でアフガニスタンが 19 人だそうです。ただ、ご存知かと思うのですが、今年の 9 月にガザ地区でもポリオが、最初は水からポリオ菌が出たということで分かって、その後実際に患者さんも出たそうです。ということで、このガザ地区につきましては、早速 9 月に対策がとられて国連ユニセフが活動したということをご存知だと思いますが、そのお金の出所について

はあまり言われませんが、実はロータリーから出ています。

ワクチンを一人に接種すると 5000 円かかります。よく、何十円で一人と言われますが、あれはワクチン代だけであり、実際はいろんな資料の配布だとか動員だとか、輸送の手配だとかこういうのいろいろお金がかかります。

次に財団の補助金という角度からちょっとお話させていただきます。



その寄付金を、どのように奉仕活動に活かすのか、と言うと、シエアシステムというスキームによって、世界中で活用できるようになっています。財源は 3 年前の年次基金寄付と、恒久基金の運用益の一部です。

公平に透明性をもって有意義に活用するためシステムです。寄付したお金が「戻ってくる」のではなく、「使う権利がある」と理解することが大切です。

地区補助金は、1 ロータリー年度につき 1 回、地区で一括して本部に申請を行います。当地区では、2022-23 年度より、クラブの 3 年前の年次基金寄付額の、23.75%までが申請可能額となりました。さらに、2023-24 年度からはクラブの拠出金がなくても申請可能となっています。承認されれば、地区に一括して補助金が入金され、クラブに振り込まれます。そこから事業をスタートすることができるようになります。比較的小規模で、短期間のプロジェクトを支援する。地元や海外で、今すぐ必要とされる支援に取り組む活動に使用され、大切なのは、「ロータリー財団の使命に沿っていること」、「ロータリー会員が積極的に参加すること」です。ロータリー財団の使命とは、ロータリー財団は、ロータリアンが、人びとの健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保全に取り組み、貧困をなくすことを通じて、世界理解、親善、平和を構築できるように支援すること、です。事業申請および実施にあたっては、特定の人・団体・地域社会に対する継続的または過度の支援や、募金活動、ロータリー行事に関連する経費、受益者や協力団体への使途無指定の現金寄付には、補助金は使用できませんので、十分な注意が必要です。

一方、グローバル補助金は、「ロータリーの重点7分野」に則した人道的プロジェクト、職業研修チーム、奨学生に使用することができ、いつでも申請が可能です。クラブ拠出金の 8 倍まで地区財団活動資金を申請することができますが、計画を立て始めたら、まず、補助金委員会に相談することが必須となっています。

・人道的プロジェクト ・職業研修チーム ・奨学金 に使用できます。使用要件は、地区補助金と同様に、ロータリー財団の使命に沿っていること、ロータリー会員が積極的に参加することに加えて、2 カ国以上のクラブ・地区が参

加すること・最低予算 3 万ドル以上であること・持続可能性を担保すること・測定可能であることです。グローバル補助金の活動は、①受益社会の人々がサポートしていること、②ロータリー会員が主導すること、③測定可能な結果を残すこと、④補助金を使い尽くされた後も地域社会が自力で持続していけるもの、であることが重要です。例えば、水に困っている地域に、井戸を掘って水を確保し、各家庭に水量計を設置して、料金をいただくことでメンテナンス費用を生み出す、というように、持続可能性を担保することです。当クラブのカンボジア事業も、あちらにロータリークラブがあればこの補助金が使えたのですが、残念ながら無いので地区補助金の事業となったわけです。



これがさっきお話した7つの重点分野。ちょっと見づらいたですが一番上の平和構築から疾病予防、水、母子の健康、あと教育地域社会の経済。それから左上緑色部分の環境が一つ最近つけ加わったということです。

職業研修チーム(VTT)について簡単に説明します。

Vocational Training Team は、専門家チームを海外に派遣して研修を行ったり、専門家チームを国内に招聘して研修を行ったりします。職業奉仕事業であり国際奉仕事業でもあるグローバル補助金のVTTは、人道的ニーズに取り組みます。昨年、コロナ禍を経て3年ぶりにVTT事業が行われました。フィリピンのダバオという町が中心の3860地区と連携して、同地区より要請のあった、小児を対象とした心臓外科手術の技術指導が行われました。

次に奨学生について。

地区で行われるグローバル補助金事業の中でも、金額が非常に大きいのが奨学生です。海外の大学院への留学を希望し、ロータリーの重点7分野に関連した研究分野を専攻して、留学後にその仕事に従事する意思を持った方に、返済不要の奨学金を支給するプログラムです。

先ほど会長からご紹介のあったロータリー平和フェロシップは、紛争予防と平和研究に優れた世界の8つの大学に「ロータリー平和センター」を設立し、将来その担い手として国際機関等で活躍する、平和を推進する人材育成を目的とした奨学金プログラムです。世界中の多くの応募者の中から、毎年最高で130名の平和フェローが平和構築のために勉強しており、これまでに、140カ国・1,700人以上の卒業生が誕生しています。当地区からは、これまでに5名を輩出しています。東京の国際基督教大学(ICU)にも平和センターがあり、今年で23年目を迎えます。また、アフリカ中東部・ウガンダのマケレレ大学の平和センターの開設に当たっては、実は、当地区が大きく貢献したそうです。

最後に、財団の資金についてです。

ロータリーには、世界中の地域社会に奉仕してきた100年以上の歴史があります。支援を必要とする人びとのためには、これからもロータリーが「世界でよいこと」を行っていくには、わたしたちからの寄付が欠かせません。

昨年度の地区の寄付実績は年次基金、ポリオプラス基金とも目標達成ができ、ロータリーが世界をよくするための活動に繋がっています。わたしたちが行った寄付は、すべてロータリー財団本部で管理されます。

そして本年度の地区目標は年次基金一人あたり150ドル以上、ポリオプラス基金一人あたり30ドル以上、恒久基金は、新規ベネファクター1名またはクラブで1,000ドル以上が目標となっています。本年度も地区目標達成に向けてご協力よろしくお願ひいたします。

さて、恒久基金について少しお話します。恒久基金への寄付は、変化をもたらすロータリーのプログラムのために安定した資金を提供し、長期的にロータリーの活動を支える力となります。年次基金寄付と比較して説明をすると、わたしたちが行った寄付に対して、さまざま認証の機会が設けられています。ポール・ハリス・フェローは、恒久基金以外の寄付額が1,000ドルに達した方に贈られる認証です。例えば、年次基金に150ドル、ポリオプラス基金に30ドルを毎年寄付すると、5年半で達成できます。その後、マルチプル・ポール・ハリス・フェロー1から8までの認証が、1,000ドルごとに累計9,000ドルまで贈られます。

ベネファクターは、先ほどご説明した恒久基金への寄付が1000ドルに達したとき、1回のみ贈られる認証です。

メジャードナーは、寄付の分類にかかわらず累計額が10,000ドルに達した方に贈られる認証です。寄付の分類にかかわらず累計額が25万ドルに達した方は、アーチ・クランフ・ソサエティのメンバーとなります。昨年来、当地区でも積極的に推進されているのが、ポール・ハリス・ソサエティとポリオプラス・ソサエティの入会です。ポール・ハリス・ソサエティ(PHS)は、年次基金やポリオプラス基金へ年間1,000ドル以上の寄付を約束された方に贈られる認証です。ポリオプラス・ソサエティ(PPS)は、ポリオプラス基金へ毎年100ドル以上の寄付を約束された方に贈られる認証です。現在、当クラブでは、PHSに1名、PPSに3名が入会されています。本年度の地区目標は、PHSが新規1名以上増加、PPSがクラブ会員5%以上です。どちらかを2025年3月31日までに達成することが、本年度のガバナー特別賞の基準となっています。当クラブでも、ぜひ目標達成できるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

第5回理事会議事録

日時 11月14日 12:00～

場所 名古屋クレストンホテル例会場

出席者 加藤、後藤、恵利、松尾、成田、藤田、小野、田島、田中(敬称略)

議題:

1. 能登半島豪雨最大義援金の件
 2. 地区補助金事業 進捗状況の件
 3. 30周年式典 進捗状況の件
 4. 次年度地区 RA 委員出向推薦の件 黒田覇太郎さん
 5. ライラ参加者の件 久保原由惟さん
- その他